
設定RPG～選んだのは魔王様！？～

月影 氷夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

設定RPG 選んだのは魔王様！？

【Nコード】

N7714P

【作者名】

月影 氷夜

【あらすじ】

えーっと…いきなりなんですけどどこですか？

周囲は真っ白、目の前には知らない男の人…

え？なに？何が始まるんではない？

神様に告げられたのは「新しく創った世界で好きなポジションやるからまあ楽しんでみたら？」だけ

理不尽でしょう？酷いよね！？「お前のが理不尽だよ畜生が」

とにかく好きなポジションくれるんでしょう？

今までの生活にも世界飽き飽きしてましたし乗りますともその話！
「じゃあじゃあ……魔王様で！」

飛ばされた世界はRPG風。敵は…同じく神に選ばれた勇者様！？
魔法も剣も当然あり！

「返り討ちにしてくれるわー！なぜなら私こそ最強ですから！」

「やっぱり貴様が一番理不尽だよチート野郎！」

「いや、女だつて」

まあとにかく始まります！

創ったばかりのこの世界が壊れなきゃいいけど

「え？壊す前提なの？試作品だけど」

………始めます

ジャンルは…ファンタジーだけどコメディチックなんで…一応前者
？

序章？「さっさと始めろよ」（前書き）

ファンタジーでコメディのつもり…

壊れること間違いなし（↑オイ）

多分流血シーンや死ネタ入るか？…未定だが

序章？」「さっさと始めるよ」

「えーっと…スミマセンここどこですか」

「第一声がそれか」

「いやだつてここどこだよ。私学校で糞つまらない授業聴いてやつてたハズなんだよ!？」

「上から目線ですか、そうですか」

真つ白で何もない空間

そこに1人のどこにでもいそうな普通の少女とどこにでもいたら困るような不思議な青年が向かい合っていました。

「…なんか理不尽な紹介された気がする」

「気のせい気のせい。それよりも答えようか。」

「貴方だれ!？ここどこ!？それから紹介ってなんのこと!？」

「聞こえてないのに気のせいとかよく言えたな!」

「その場のノリですよ!あえていうなら神様のお告げ!？」

「疑問系じゃねーかよ!あと神様のお告げがあつてたまるか!」

神を信じる否定するなど人それぞれだというのに青年は叫びます
それに少女は神への信仰心を見せ付けるように…

「神よーこの者は貴方様に無礼な物言いをいたしました!」
よつて是非是非天罰を!」

「便乗してんじゃねえよ!聞こえてるだろお前!

あとお前神様とかぜんぜん全く欠片も信じてないだろ!」

「…(チツ)人の心とは日々変化していくものだ!

そして私は今だけ神を信じる!ご都合主義万歳ですが!？」

「舌打ちしたよな!？しかも本音ぶちまけてんじゃねえか!」

叫びすぎたのか青年は息も絶え絶えです
少女も荒い息をついています

「…で、結局貴方だねの」

「俺？俺は - - 神、だ」

「…髪？紙？神！？」

盛大に間違っつてようやく答えに辿りつきました少女

「神つてあのかみ？G O D！？えー…うつそだあ」

「そんだけ言つといて嘘ときたか。

だが俺は正真正銘、人間達の言うところの神だ」

だから神のお告げはないし天罰もないわけですね
神様が神様を信じる云々以前の問題ですよ

…ところでいつになったら本題に入るんですかね

「あー忘れてた！」

「すまん。それ俺のセリフだから」

序章？「さっさと始めろよ」（後書き）

おかしなテンションで書いてるんでいきなりシリアスになったりするかと

基本、ギャグ苦手なんで。作者本人が言うのもなんだが期待しない方がいい…かも

簡潔説明〜まだマシでしたか〜（前書き）

あらすじの面影もない…（泣）

簡潔説明〜まだマシでしたか〜

自覚しているなら早く進めてほしいものなのだが二人はいまだになにやら叫びあっていた

「なんで神様がいきなり私なんかの前に現れるわけ!？」

ありえない! 目的はなんだ自称神な中二病!」

「自分でなんかって痛くないか？」

あと自称じゃねえ! 真正正銘、俺は神だー!」

よく声が嘎れないものだとか興味したくなるように叫びあう少女と自称・神様
まるでコントのようなやりとりである

「だから! 自称じゃない! 乗っかるなよナレーションも!」

…じゃあもう突っ込みませんとも

「やっとか…なんか本題に突入する前にものすごく疲れた…」

青年は出てもない汗をぬぐうように腕で額を擦り、真剣な表情で少女を見つめた

「俺はお前だなんと言おうと神と呼ばれる存在だ。

まあ神とか言っても人間がそう読んでもただだし俺だけじゃないんだがな…」

「ハイハイ、質問! 神様ってどんなことができるんでしょう!？」

「あー…まあ異常気象おこしたり人間にお告げしたり新しく世界を創ったりできるが…今回お前をよんだのは一番最後、世界を創るつ

てことに関係している」

「？なんで私が？」

「いや、正確に言うともう世界は完成してる。

で、俺を含めた神連中で1人ずつその新しい世界に既に存在している世界から人間を連れてくることにしたんだ。

まあ人間がいない世界もあるんだがな」

「なんで私？」

「適当」

適当と言い切り啞然とする少女をほうつて青年が続けます

「お前の世界でいうRPG風になってるから。

で？どうする？…正直もう拒否権ないがな」

「…もし断つたらどうしてたわけ」

「それはその時に考えてた。他の奴らはあの手この手でだましてでも連れてくるだろうけど。

よかったな俺で」

「結果同じなら誰だって一緒じゃん」

「へえ？いきなり事故に巻き込まれて説明も受けず転生トリップさせられたり自分のポジションも選べない方がいいってか」

「ご丁寧な対応に説明、真に感謝いたします」

即座に今までの態度を翻しキツチリ45度のお辞儀をする。

そして再び質問をする少女。

…やっぱり三人称って苦手だ…

「ポジションってなんでしょう。RPG風ってことは『勇者』とか『姫』とかのこと！？」

「その通り。魔法もあるしモンスターもいるぞー」

「よっしゃー！じゃ、早く連れてって！即、素早く、今すぐに！」

「決断早すぎだろ！…いいのか？いつ帰れるのかわからないぞ」

「いや、いつかは帰れるのかよ。しかも拒否権無しって言ったのあんただ。」

それに！私はあんな世界に未練はない！

親なんて妹がいれば充分だろうし友達とは名ばかりの腹の探りあい、その他諸々！うんざりしてたし！」

「お前選んでよかったは…。」

じゃああつちでの設定これに書いて」

なんだか本当にゲームの設定みたいだなんて考えながら少女は紙を受け取る。

「どんな設定にしようかな…！？」

追記として、他の神様は多分ポジションはともかくその他の設定なんて決めさせてないと思います
少女が幸運なのか他が不運なのか…

それこそ神のみぞしるのみ

簡潔説明ゝまだマシでしたかゝ（後書き）

次から主人公の一人称で進めます

主人公の滅茶苦茶さが炸裂ゝしたらいいんだが

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7714p/>

設定RPG～選んだのは魔王様！？～

2011年11月12日19時55分発行